

2004年度 事業報告書



学校法人 明治学院

1．学校法人明治学院の概要

(1) 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(2) 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

(3) 設置する学校の役員数・教職員数

2．2004年度事業の概要

(1) 法人

(2) 明治学院大学・大学院

(3) 明治学院高等学校

(4) 明治学院中学・東村山高等学校

3．2004年度財務の概要と経年比較

(1) 消費収支計算書

(2) 貸借対照表

1. 学校法人明治学院の概要

(1) 設置する学校の所在地・キャンパス面積・校舎面積

(単位: m²)

	所在地	使用部門	キャンパス面積	校舎面積
白金キャンパス	東京都港区白金台	大学院・大学 高校・法人	37,651	71,315
横浜キャンパス	横浜市戸塚区上倉田他	大学院・大学	198,271	48,944
東村山キャンパス	東京都東村山市富士見町	中学 東村山高校	56,200	16,700
戸塚グラウンド	横浜市戸塚区俣野町	大学院・大学	48,872	2,039

(2005年3月31日現在)

(2) 設置する学校の学部学科名・開設年度・入学定員・入学者数・収容定員・現員

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開 設 年 度	入 学 定 員	入 学 者 数	収 容 定 員	現 員
明 治 学 院 大 学 (東京都港区白金台)	大学院	年度	人	人	人	人
	文学研究科		44	22	130	92
	英文学専攻 博士(前期)課程	1995	12	6	24	9
	英文学専攻 博士(後期)課程	1962	2	0	6	4
	フランス文学専攻 博士(前期)課程	2000	10	4	20	14
	フランス文学専攻 博士(後期)課程	2003	5	1	15	4
	芸術学専攻 博士(前期)課程	2001	10	7	20	21
	芸術学専攻 博士(後期)課程	2003	5	4	15	7
	大学院 文学研究科 心理学専攻 修士課程	1994			30	33
	大学院 経済学研究科	経済学研究科		56	5	118
大学院 社会学研究科	社会学専攻 博士(前期)課程	1960	10	0	20	0
大学院 法学研究科	社会学専攻 博士(後期)課程	1989	3	0	9	1
大学院 心理学研究科	経営学専攻 博士(前期)課程	1970	40	3	80	23
大学院 法務職研究科	経営学専攻 博士(後期)課程	1989	3	2	9	5
第一部・昼間主コース	社会学研究科		25	13	55	38
文学部・経済学部・社会学部・ 法学部・心理学部の3・4年次 課程	社会学専攻 博士(前期)課程	1967	10	4	20	11
	社会福祉学専攻 博士(前期)課程	1960	10	9	20	19
	社会学・社会福祉学専攻 博士(後期)課程	1969	5	0	15	8
第二部・夜間主コース	法学研究科		20	3	45	11
全学部1～4年次課程 (神奈川県横浜市戸塚区上倉田町)	法律学専攻 博士(前期)課程	1970	15	2	30	8
大学院 国際学研究科	法律学専攻 博士(後期)課程	1972	5	1	15	3
第一部・昼間主コース	国際学研究科		13	5	29	13
文学部・経済学部・社会学部・ 法学部・心理学部の1・2年次 課程	国際学専攻 博士(前期)課程	1990	10	5	20	11
	国際学専攻 博士(後期)課程	1992	3	0	9	2
国際学部1～4年次課程	心理学研究科		30	25	30	25
	心理学専攻 修士課程	2004	30	25	30	25
	法務職研究科		80	73	80	73
	法務専攻 専門職学位課程	2004	80	73	80	73
	大学院 計		268	146	487	281

学 校 名 (所 在 地)	学部・学科等名	開 設 年 度	入学定員	入学者数	収容定員	現 員
	文 学 部	1949	410	460	2,160	2,702
	英文学科	1949	200	222	884	1,132
	フランス文学科	1965	110	134	494	622
	芸術学科	1990	100	104	301	413
	心理学科	1990			481	535
	経 済 学 部	1949	510	582	2,100	2,773
	経済学科	1949	255	301	1,050	1,372
	経営学科	1952	255	281	1,050	1,401
	社 会 学 部	1949	460	442	1,888	2,286
	社会学科昼間主コース	1949	175	161	749	963
	社会学科夜間主コース	1949	50	40	200	178
	社会学科	1949			0	3
	社会福祉学科昼間主コース	1965	185	212	739	969
	社会福祉学科夜間主コース	1965	50	29	200	170
	社会福祉学科	1965			0	3
	法 学 部	1966	535	615	2,212	2,689
	法律学科	1966	250	292	1,135	1,458
	消費情報環境法学科昼間主コース	2000	100	136	325	432
	消費情報環境法学科夜間主コース	2000	75	64	300	248
	政治学科	1990	110	123	452	551
	国 際 学 部	1986	225	264	930	1,223
	国際学科	1986	225	264	930	1,223
	心 理 学 部	2004	200	207	200	207
	心理学科	2004	200	207	200	207
	文 学 部 第 二 部	1949	100	68	400	241
	英文学科	1949	100	68	400	241
	経 済 学 部 第 二 部	1949	200	109	800	414
	経済学科	1949	100	59	400	233
	経営学科	1952	100	50	400	181
	社 会 学 部 第 二 部	1949			0	9
	社会学科	1949			0	9
	法 学 部 第 二 部	1966			0	8
	法律学科	1966			0	8
	明治学院大学 計		2,640	2,747	10,690	12,552
明治学院高等学校 (東京都港区白金台)	全日制課程(普通科)	1948	334	310	1,000	933
明治学院東村山高等学校 (東京都東村山市富士見町)	全日制課程(普通科)	1963	240	252	720	766
明治学院中学校 (東京都東村山市富士見町)		1947	140	155	420	455

(2004年5月1日現在)

(3) 設置する学校の役員数・教職員数

A. 役員

		定 員	現 員
理事	常 務 理 事	11名	11
	理事(常務理事を除く)	11～13名	13
	理 事 小 計	22～24名	24
監 事		2名	2
評 議 員		45～49名	49

(2004年5月1日現在)

B. 教職員

		大 学 (法人所属を含む)	高等学校	東村山高等学校	中 学 校	合 計
常 勤	教 員	262	44	33	19	358
	助 手	5	0	0	0	5
	副 手	5	0	0	0	5
	研 究 ・ 実 験 助 手	5	0	0	0	5
	職 員	189	5	6	1	201
	学 院 牧 師	1	0	0	0	1
	音 楽 主 任 者	1	0	0	0	1
	現 業 職 員	1	0	0	0	1
	教 学 補 佐	23	0	0	0	23
	特 別 嘱 託	15	0	1	3	19
	常 勤 小 計	507	49	40	23	619
非 常 勤	講 師	825	32	18	8	883
	職 員	110	8	5	3	126
	非 常 勤 小 計	935	40	23	11	1,009
総 合 計		1,442	89	63	34	1,628

(2004年5月1日現在)

* 東村山高等学校 非常勤講師には、宣教師一名を含む

2. 2004年度事業の概要

(1) 法人

事業の概要	<p>学校法人明治学院としての教育事業</p> <p>(東京都港区白金台)</p>																																
主な事業の目的と計画	<p>1. 白金チャペル耐震修復工事と新パイプオルガン設置のための募金活動</p> <p>【目的】1916年に建てられた明治学院の象徴とも言える白金チャペルに耐震修復工事が必要となり、併せて新パイプオルガンを設置するための募金活動を行う。</p> <p>【計画】総事業費 540 百万円のうち募金目標額 300 百万円</p> <p>2. 有利子負債の圧縮による財務体質の改善</p> <p>【目的】借入金を計画的に返済し、財務体質を改善する。</p> <p>【計画】元金 2,596 百万円の返済と利息 264 百万円の支払</p> <p>3. 株式会社明治学院サービスによる学院財政への貢献</p> <p>【目的】(株) 明治学院サービスは、明治学院の教育研究活動と密接な関係を有する事業の一層の効率化に寄与するため、1998 年 1 月に設立された。現在は明治学院が 53%、明治学院同窓会が 47% 出資しており、2004 年度は一層の事業内容の拡大によって学院財政へ貢献することを目指している。</p> <p>【計画】教育研究活動と密接な関係を有する事業内容の拡大・強化により、学生サービスの向上と学院財政に対する一層の貢献を図る。</p> <p>4. 明治学院バッハ・アカデミーの開催</p> <p>【目的】「明治学院バッハ・アカデミー」は、バッハ没後 250 年を記念して 2000 年に設立され、学生はじめ地域住民にも呼びかけて、白金チャペル(横浜チャペルでは年 1 回)で演奏会を開催している。</p> <p>【計画】2004 年度には、「バッハと古典」というテーマで 6 回の定期演奏会を開催する。</p>																																
事業計画の進捗状況	<p>1. 白金チャペル耐震修復工事と新パイプオルガン設置のための募金活動</p> <p>2005 年 3 月末応募状況</p> <p style="text-align: center;">(件、千円)</p> <table border="1" data-bbox="504 1447 975 1529"> <tr> <th>応募件数</th> <th>金額</th> </tr> <tr> <td>665</td> <td>35,098</td> </tr> </table> <p>2. 有利子負債の圧縮による財務体質の改善</p> <p style="text-align: right;">(百万円)</p> <table border="1" data-bbox="421 1644 1445 1807"> <thead> <tr> <th></th> <th>2000 年度</th> <th>2001 年度</th> <th>2002 年度</th> <th>2003 年度</th> <th>2004 年度</th> <th>2005 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>支払利息</td> <td>515</td> <td>482</td> <td>457</td> <td>366</td> <td>215</td> <td>194</td> </tr> <tr> <td>返済額</td> <td>867</td> <td>777</td> <td>1,180</td> <td>1,240</td> <td>2,631</td> <td>1,029</td> </tr> <tr> <td>借入金残高</td> <td>12,120</td> <td>11,343</td> <td>10,163</td> <td>8,923</td> <td>6,292</td> <td>5,263</td> </tr> </tbody> </table> <p>2004 年度の支払利息は予算比 49 百万円減少(積算相違) また 2005 年度は予算の金額</p> <p>3. 株式会社明治学院サービスによる学院財政への貢献</p> <p>業務内容の拡大に伴う定款変更を実施した。学院各部門の協力により、売上高は 251 百万円(当期利益 6 百万円)となり、学院財政に対して約 70 百万円の貢献をすることができた。</p> <p>4. 明治学院バッハ・アカデミーの開催</p> <p>定期会員 113 名、年間入場者数 1,598 名となった。演奏(マリアを讃えるカンタータ ヨハネ受難曲)を CD にし、好評を得ることができた。</p>	応募件数	金額	665	35,098		2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度	支払利息	515	482	457	366	215	194	返済額	867	777	1,180	1,240	2,631	1,029	借入金残高	12,120	11,343	10,163	8,923	6,292	5,263
応募件数	金額																																
665	35,098																																
	2000 年度	2001 年度	2002 年度	2003 年度	2004 年度	2005 年度																											
支払利息	515	482	457	366	215	194																											
返済額	867	777	1,180	1,240	2,631	1,029																											
借入金残高	12,120	11,343	10,163	8,923	6,292	5,263																											

(2) 明治学院大学・大学院

<p>事業の概要</p>	<p>大学院・大学における教育・研究事業</p> <p>(白金キャンパス：東京都港区白金台 横浜キャンパス：横浜市戸塚区上倉田町)</p>
<p>主な事業の目的と計画</p>	<p>1. 法科大学院の開設</p> <p>【目的】豊かな人間性と幅広い見識を備えた創造的な法曹の育成を通して、広く社会に貢献することを目指して開設する。</p> <p>【計画】2004年4月には入学定員80名の新入生を受け入れる。</p> <p>2. 心理学科から心理学部への拡充</p> <p>【目的】文学部から独立して、心理学部を設立する。その目的は、従来の文科系・理科系の枠にとられない独自の学問を目指し、より充実したカリキュラムで、今まで以上にその可能性を広げる。</p> <p>【計画】2004年4月に心理学部を設立し、入学定員200名を受け入れる。</p> <p>3. 「他者への貢献 (Do for Others)」を理念とする教育・研究の充実</p> <p>【目的】人間が愛しみ合い、文化と生活を向上させるために必要な学術知識と教養を教授し、他者に貢献できる、優れた人材を世に送り出すことに教育の重点を置いていく。</p> <p>【計画】教養教育センターによる能力別語学の少人数クラスの設置 (英語クラス25名、その他の語学クラス20～35名)</p> <p>国際交流の充実 学生によるボランティア活動 キャリアサポート体制の強化 高大連携の充実</p> <p>4. 教育研究のための IT システムの開発と整備</p> <p>【目的】教育研究条件の中で、特に教育・研究の高度情報化への対応として、IT(情報技術)への積極的取り組みを行う。</p> <p>【計画】具体的な取り組み項目</p> <p>(1) 基幹 LAN とサーバー再構築による、教育研究体制面における情報技術の強化</p> <p>(2) 学生向けポータルサイトの構築による、学生サービスの一層の向上に向けた準備</p> <p>5. 大学施設・環境の整備</p> <p>【目的】教育研究水準を維持・向上するための教育施設・環境の整備を行う。</p> <p>【計画】具体的な取り組み項目</p> <p>(1) マルチメディア教室の拡充</p> <p>(2) 法科大学院施設・設備の整備</p> <p>(3) 不動産等固定資産の有効活用</p> <p>6. 大学「ブランディングプロジェクト」の立ち上げ</p> <p>【目的】アイデンティティの形成という観点から創設者はヘボンであり、教育理念はヘボンの日本社会に対する貢献に由来すること。その理念を実現するための教育システムを明治学院大学はいま充実しなければならないこと。この課題を実現して生まれ変わろうとしている明治学院大学の決意を視覚的に表現する。</p> <p>【計画】アートディレクターを起用し、ロゴ(タイプ)作成、スクールカラー選定、事務系ステーションナリー等の刷新整備を行う。</p>

事業計画の進捗状況

1. 法科大学院の開設

2004年度志願者数 1,329名 入学者数 73名 (内訳 2年制 18名 3年制 55名)
 「2004年度法科大学院等専門職大学院支援プログラム」に本学プロジェクトが選定された。
 (1) 実践的教育推進プログラムにおいて「遠隔授業システムとITを活用した実務教育」(単独)
 (2) 教育高度化推進プログラムにおいて「公設法律事務所を活用した臨床法学教育」(國學院大學
 獨協大学 東海大学との共同)

2. 心理学科から心理学部への拡充

1年生から4年生までの体系的教育の実施、「心理臨床センター」での実習などを通しての「社会とのかかわりを重視した実践的な心理学」を学ばせるため、2005年4月から全学年が白金キャンパスで履修できるよう準備を完了した。

3. 「他者への貢献 (Do for Others)」を理念とする教育・研究の充実

(1) 国際交流の実績

海外協定校は、世界12カ国18校。交流人数は、私立大学の中でもトップクラスに位置している。

(人)

	2002年度	2003年度	2004年度
長期留学派遣者	40	36	41
短期留学派遣者	97	79	142
協定校からの留学生	50	71	81
正規留学生	31	33	46
短期留学生	29	29	28

(2) ボランティア活動の充実

A. 文部科学省の2003年度「特色ある大学教育支援プログラム」に、「大学教育における社会参画体験の取込みと実践」というテーマで選定され、2004年度は以下の通りその実践に取り組んだ。
 (継続プロジェクト)

第4回「ソニーマーケティング・学生ボランティアファンド」の継続

第3回「地域学生わくわく交流祭」と第4回「松下電器CCカレッジ」の継続

(ボランティア情報システムの開発)

ボランティア情報の検索・登録のWeb・システムを2004年度に開発し、新年度から、学生の登録を自動化することができるようになった。

(ボランティアセンター開設5周年記念講演会)

姜 尚中東大教授を迎えて「国家と民族を超えて—新たな公共圏へ—」というテーマで講演会を開催した。

(新潟災害支援ボランティア活動とスマトラ沖地震災害支援ボランティア活動の準備)

新潟中越地震の支援ボランティア活動を実施した。また、スマトラ沖地震の支援ボランティアのプログラムを2005年度に実施するため、2005年3月にタイのタマサート大学のスタッフと現地で打合せを行った。

B. 経済学科、経営学科、社会福祉学科、国際学科、政治学科の正規授業の中で、社会参画を柱とする科目も設けている。共通科目で「総合科目・ボランティアと市民社会」という講義形式もあり、2004年度の受講者は春学期152名秋学期147名となっている。

C. 学生ボランティア系のサークル、「施設社会研究会」「人形劇団ZOO」など、多くのサークルに学生が積極的に参加している。

(3) キャリアサポート体制の強化

2004年4月に、「就職部」を「キャリアセンター」に改組・強化した。特に①学生に早い段階からの就職に関する意識付け、②キャリアセンター職員による学生に対するきめ細かい指導を行った。また、求人件数も増加した。

	2002 年度	2003 年度	2004 年度
求人件数	5,702 件	5,592 件	6,433 件

(4) 高大連携の実績

田園調布高校の生徒を対象に、法律学科と政治学科が犯罪論(5 名)および都市論と政治政策論(2 名)の講座を開設した。

明治学院高校生を対象に、経済学科がアメリカ経済論 I・II の講座(12 名)を開設した。また、フランス文学科は明治学院高校生を対象にフランス語講座の出張授業を行った。

4. 教育研究のための IT システムの開発と整備

(1) 信頼性・セキュリティーおよびサービスの向上を目的とした基幹 LAN およびサーバー再構築を行い、教育研究のサポート体制の強化を図った。

(2) 学生向けポータルサイトの整備を行い、学生サービスにおけるイノベーションとして、2005 年度からの運用が可能となった。

(3) Web 履修登録の必須化を準備し、2005 年度からの本格的な実施が可能となった。

5. 大学施設・環境の整備

(1) マルチメディア教室として、白金 9 教室と横浜 16 教室を整備した。

(2) 法科大学院の教室、資料室等を追加整備した。

(3) 白金キャンパスの近隣に、教育研究用施設のための用地(904 m²)を取得した。

(4) 研修施設(セベレンス館)を売却する一方では、研修用施設確保のため「ラフォーレ」との契約を行った。

6. 大学「ブランディングプロジェクト」の立ち上げ

アートディレクター佐藤可士和氏を起用し、第 1 段階として新しいブランドロゴとスクールカラーがデザインされ、2005 年度から各種事務系ステーションナリーに使用開始する。

また大学案内や Web のデザイン化や監修も開始した。

(3) 明治学院高等学校

事業の概要	高等学校における教育事業 (東京都港区白金台)
主な事業の目的と計画	<p>1. キリスト教教育 【目的】神を畏れ、人を愛し、真理を探究し、他と共に高めあう人間の育成を目指す。 【計画】日常の礼拝を守ると共に、年数回の特別礼拝を守る。教職員及び生徒対象の聖書の学び、また研修会を実施する。ワークキャンプ、募金活動を実施する。</p> <p>2. 新カリキュラムへの移行 【目的】進路の多様性に応じた選択科目の充実 【計画】2年生から実施している、文系・理系の進路に応じた選択科目を充実させる。 また、2年生・3年生共通自由選択科目を設け、多様な講座を開設する。2005年度完成を目指し推進する。</p> <p>3. 総合学習の実施 【目的】教師と生徒がともに生き方を考えてゆく。 【計画】1年生では「キリスト教と明治学院」をテーマに学び、2年生ではコース別に授業と研修旅行を実施する。</p> <p>4. 進路指導 【目的】一人ひとりが自主的に進路を切り開くための指導 【計画】進路適性検査、個別面談、分野別進路ガイダンスを各学年の段階に応じて実施し、目的意識の具体化を図る。また、模擬試験を実施し学力の充実を図る。</p> <p>5. 新校舎建築に向けての準備 【目的】施設・設備の老朽化に対応する。また、21世紀の教育にふさわしい設備の充実を図ると共に、バリアフリーにも対応する校舎の建築を目指す。 【計画】高校旧校舎および体育館の改築に向けて、基本設計に着手する。</p>

<p>事業計画の進捗状況</p>	<p>1. キリスト教教育</p> <p>本事業目的遂行のため、以下の項目を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別礼拝（イースター：3年生、母の日：1年生、ペンテコステ：2年生、キリスト教教育週間：各学年、クリスマス：各学年、信教の自由を守る日：1・2年生） ・教職員聖書講話（4月） ・聖書について語る会（生徒・教職員自由参加：各学期2回） ・アジア学院ワークキャンプ（8月） ・明治学院の先駆者を顕彰するため青山墓地清掃（10月） ・クリスマスツリー点灯式（11月） ・クリスマス献金（12月：キリスト教系福祉団体40団体および新潟県中越地震救援資金に献金） ・宿泊研修会（3月） など <p>2. 新カリキュラムへの移行</p> <p>理数系選択科目を増設し、進路の多様化に対応した。共通自由選択科目の中では、ハングル語講座や、明治学院大学の協力を得た大学開放講座・フランス語講座も開設されている。2005年度に向けて新たに法学部との連携の準備も始まった。</p> <p>3. 総合学習の実施</p> <p>1年生：「キリスト教と明治学院」をテーマにガイダンス合宿を実施し、明治学院の歴史と理念を学んだ。</p> <p>2年生：沖縄の歴史と文化・キリスト教と平和（長崎）・環境とエネルギー問題（下北半島）・田舎暮らし（新潟県魚沼市）・韓国の歴史と文化・米国ホームステイの6コースを設け、授業と実地研修を行った。</p> <p>4. 進路指導</p> <p>進路指導部と学年会との連携のもと、以下の項目を実施した。</p> <p>1年生：個別面談・進路適性検査・業者テスト（年1回）</p> <p>2年生：進路ガイダンス・個別面談・進路適性検査・業者テスト（年3回）</p> <p>3年生：明治学院大学学部学科説明会・卒業生による進路説明会・個別面談・校内実力テスト（1回） ・業者テスト（2回）</p> <p>また、各学年毎に、学年進路通信『ほっぷ』(1年)・『すてっぷ』(2年)・『じゃんぷ』(3年)を定期的に発行した。</p> <p>5. 新校舎建築に向けての準備</p> <p>近年校舎建築を実施した他校を訪問し情報を収集すると共に、基本設計に向けての設計業者選定の準備に入った。また、募金活動に向けての準備作業に入った。</p>
------------------	---

(4) 明治学院中学・東村山高等学校

<p>事業の概要</p>	<p>中学・東村山高校における教育事業</p> <p>(東京都東村山市富士見町)</p>
<p>主な事業の目的と計画</p>	<p>[1] 道徳人・実力人・世界人の育成を理念とする教育の充実</p> <p>1．道徳人の育成</p> <p>【目的】キリスト教学校としての建学精神である「隣人愛」を中心に、人と共に生きることのできる人物を育成する。</p> <p>【計画】毎朝の礼拝や聖書の授業を充実させる。ボランティア活動では、中学は体験学習、高校は支援体験を、学校行事では、各学年が修養会あるいは研修旅行等を実施する。また献金活動をすすめ、共に生きる意味を学ばせる。</p> <p>2．実力人の育成</p> <p>【目的】自己に与えられた課題に主体的、積極的に取り組めるように、自らの力で克服できる人間を育成する。</p> <p>【計画】中学から高校へ学力をつけて進むために、中学の学年進級及び高校へ移行する基準を明確に定める。</p> <p>高校は主にカリキュラムの内容を改善し学力を高める。また、一貫教育として中高6年間の進路指導を充実させ、本人の生きる力を養う。</p> <p>3．世界人の育成</p> <p>【目的】世界の国々や民族の文化を理解することができ、人類の平和のために人と共に生きる人物を育成する。</p> <p>【計画】中学は米国テネシーサマーキャンプを実施し、様々な生活・文化を学ばせる。</p> <p>高校は米国ホームステイを実施し、日本と外国の関係を大きな視野で見る力を養う。また、東南アジア支援ボランティア運動に参加させ、世界人である自覚をもたせる。</p> <p>[2] その他重点課題</p> <p>1．生徒の身なりの改善</p> <p>【目的】身なりの乱れが学校生活全般の乱れにつながることを防ぐ。</p> <p>【計画】「身なり規程」「身なり規程補足」を定め、各学年の指導を進め、保護者にも協力を求める。</p> <p>2．募集・入試対策</p> <p>【目的】少子化の具体的手立てを強化する。</p> <p>【計画】特に外部の学校説明会等には出来るだけ広く参加し、本校の教育をアピールする。</p> <p>3．学校内の業務の請負</p> <p>【目的】制服購入に対して保護者負担の軽減と質の向上を図る。</p> <p>【計画】目的にかなう制服業者を新たに選ぶ。</p>

<p>事業計画の進捗状況</p>	<p>[1] 道徳人・実力人・世界人の育成を理念とする教育の充実</p> <p>1. 道徳人の育成</p> <p>以下様々な活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・礼 拝：イースター、家族、ペンテコステ、宗教改革記念、学院創立記念、永眠者記念、クリスマス。 ・講演会：信教の自由を守る日。 ・ボランティア活動：中学は車椅子、アイマスク、インスタントシニア、点字ペン等の体験。高校は国際精神里親運動(フィリピン)、エイズ孤児のための施設(タイ)の献金等の支援。 ・学年行事:修養会(中1、中2、高1)、研修旅行(中3、高2)。 ・献 金:各キリスト教関係の約20団体。新潟中越地震災害義援金、スマトラ島沖津波被害支援募金。 ・その他：クリスマスツリー点灯式、近隣クリスマスの集い、NCCキリスト教教育週間、教職員宗教研修会(3回)、近隣牧師の宗教教育懇談会(2回)等。 <p>2. 実力人の育成</p> <p>高校では高3総合学習導入、必修選択・申告選択科目の新設・再配置をし、高2、高3での選択科目数が増加したため教科間の調整をした。</p> <p>高1数学と高2英語ライティングの習熟度別少人数教育も導入した。また、中・高各教科の授業進度と内容を学習展開例として作成することで、本校の学習内容を明確にすることができた。</p> <p>進路教育では進路ガイダンス、将来の職業、選択科目、大学説明会、個人面談、模擬試験、推薦入試、系列校特別推薦、進路ニュース発行、卒業生合格体験談、小論文指導等についての具体的な指導をした。</p> <p>3. 世界人の育成</p> <p>中学生のテネシーサマーキャンプは今年度を含め10回実施され、過去約350名が参加した。今年度もテネシー明治学院のアメリカ人教師から授業・課外活動を通して様々な生活・文化を学び、貴重な体験をした。</p> <p>高校の米国ホームステイ参加者は五つの州にわたり、それぞれ教会に属するクリスチャンファミリーの家庭に滞在して生活、文化を学び、日本と外国の関係を大きな視野で見る力を養った。</p> <p>更に、高校生はフィリピンの青年の就学を援助したり、タイのエイズ孤児の生活を支える運動に参加し、世界人としての力を養った。</p> <p>[2] その他重点課題</p> <p>1. 生徒の身なりの改善</p> <p>頭髪の染色禁止、ピアス・化粧の禁止、携帯電話の使用規定など具体的に改善した。更に身なり規程等を作成し改善を目指すことを決めた。</p> <p>2. 募集・入試対策</p> <p>募集対策として、内部学校説明会は13回実施、外部学校説明会は20回参加。また、ホームページの改訂、オープンキャンパスを新たに実施した。</p> <p>入試対策は、2006年度中学入試に2科・4教科選択導入を2004年度中に決定した。高校は第1志望制度の見直し、推薦制度の検討をはじめた。</p> <p>3. 学校内の業務の請負</p> <p>明治学院サービスに依頼し新たな制服業者が決定された。校内に販売する「サービスショップ」も設置され、目的にかなった業務が行われることになった。</p>
------------------	---

3. 2004年度財務の概要と経年比較

2001年度～2004年度

(1)消費収支計算書(第1表)

(単位:百万円)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
消費収入の部				
学生生徒等納付金	13,418	13,795	13,954	13,876
手数料	1,142	1,093	1,078	870
寄付金	268	247	174	151
補助金	1,376	1,368	1,429	1,601
資産運用収入	191	178	195	181
資産売却差額	75	0	0	278
事業収入	32	32	37	41
雑収入	641	556	473	441
帰属収入合計	17,146	17,273	17,343	17,443
基本金組入額	1,614	1,786	1,770	2,027
消費収入の部合計	15,531	15,486	15,572	15,415
消費支出の部				
人件費	9,183	9,166	9,256	9,287
(内、退職給与引当金繰入額)	(807)	(726)	(590)	(357)
教育研究経費	4,290	4,559	4,258	4,623
(内、減価償却費)	(1,620)	(1,713)	(1,668)	(1,617)
管理経費	759	705	876	851
(内、減価償却費)	(140)	(139)	(162)	(147)
借入金等利息	482	457	366	215
資産処分差額	541	1,246	38	483
徴収不能引当金繰入額	0	304	304	33
徴収不能額	0	0	0	0
消費支出の部合計	15,256	16,440	15,099	15,493
当年度消費収支差額	274	953	473	78
前年度繰越消費支出超過額	10,159	9,884	10,837	10,364
翌年度繰越消費支出超過額	9,884	10,837	10,364	10,442
帰属収入消費支出差額	1,890	833	2,244	1,950

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

消費収支関係財務比率(単位:%)				
消費支出比率	89.0%	95.2%	87.1%	88.8%
学生生徒等納付金比率	78.3%	79.9%	80.5%	79.6%
人件費比率	53.6%	53.1%	53.4%	53.3%
教育研究経費比率	25.0%	26.4%	24.6%	26.5%
帰属収入消費支出差額比率	11.0%	4.8%	12.9%	11.2%
補助金比率	8.0%	7.9%	8.2%	9.2%
寄付金比率	1.6%	1.4%	1.0%	0.9%

～ の計算式は下記の通りです。

消費支出比率:	消費支出 / 帰属収入
学生生徒等納付金比率:	学生生徒等納付金 / 帰属収入
人件費比率:	人件費 / 帰属収入
教育研究経費比率:	教育研究経費 / 帰属収入
帰属収入消費支出差額比率:	100% - 消費支出比率
補助金比率:	補助金 / 帰属収入
寄付金比率:	寄付金 / 帰属収入

(2) 貸借対照表(第2表)

(単位:百万円)

	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度
固定資産	70,803	69,854	69,684	66,756
有形固定資産	54,648	53,934	52,946	52,651
土地	15,387	15,384	15,480	16,324
建物(含付属設備)	31,151	30,581	29,605	28,504
構築物	2,537	2,630	2,523	2,365
教育研究機器備品	1,615	1,355	1,255	1,143
その他機器備品	240	230	194	167
図書	3,554	3,713	3,869	4,050
その他	160	38	18	93
その他の固定資産	16,155	15,919	16,737	14,105
退職給与引当特定資産	3,411	3,496	3,540	3,433
教育施設拡充引当特定資産	3,723	3,239	3,273	2,879
国際交流引当特定資産	12	11	11	12
チャペルオルガン引当特定資産	-	-	21	33
その他の引当特定資産	707	1,133	2,237	123
第3号基本金引当資産	6,911	7,009	7,019	7,049
長期貸付金	1,340	946	540	451
その他	47	83	91	121
流動資産	11,432	11,601	12,658	14,961
現金預金	5,528	5,320	5,582	7,043
有価証券	4,652	5,534	6,389	7,350
その他	1,251	746	686	568
資産の部合計	82,236	81,455	82,342	81,718
固定負債	13,537	12,418	9,855	8,695
長期借入金	10,126	8,922	6,314	5,261
退職給与引当金	3,411	3,496	3,540	3,433
流動負債	5,228	4,734	5,940	4,527
短期借入金	1,216	1,240	2,608	1,030
前受金	3,110	2,846	2,608	2,763
その他	901	647	724	733
負債の部合計	18,765	17,152	15,796	13,222
基本金				
第1号基本金	61,661	63,833	65,559	67,951
第2号基本金	3,723	3,239	3,273	2,879
第3号基本金	6,911	7,009	7,019	7,049
第4号基本金	1,058	1,058	1,058	1,058
基本金の部合計	73,354	75,140	76,911	78,939
消費収支差額	9,884	10,837	10,364	10,442
消費支出差額の部合計	9,884	10,837	10,364	10,442
負債の部、基本金の部、消費支出差額の部合計	82,236	81,455	82,342	81,718
自己資金(正味財産)	63,470	64,303	66,547	68,497

記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

貸借対照表関係財務比率(単位:%)				
流動比率	218.7%	245.1%	213.1%	330.5%
基本金比率	88.0%	89.7%	91.1%	93.0%
負債比率	29.6%	26.7%	23.7%	19.3%

～ の算出式は下記の通りです。

流動比率:	流動資産 / 流動負債
基本金比率:	基本金 / 基本金要組入額
負債比率:	総負債 / 自己資金(基本金 + 消費収支差額)